



せいほう



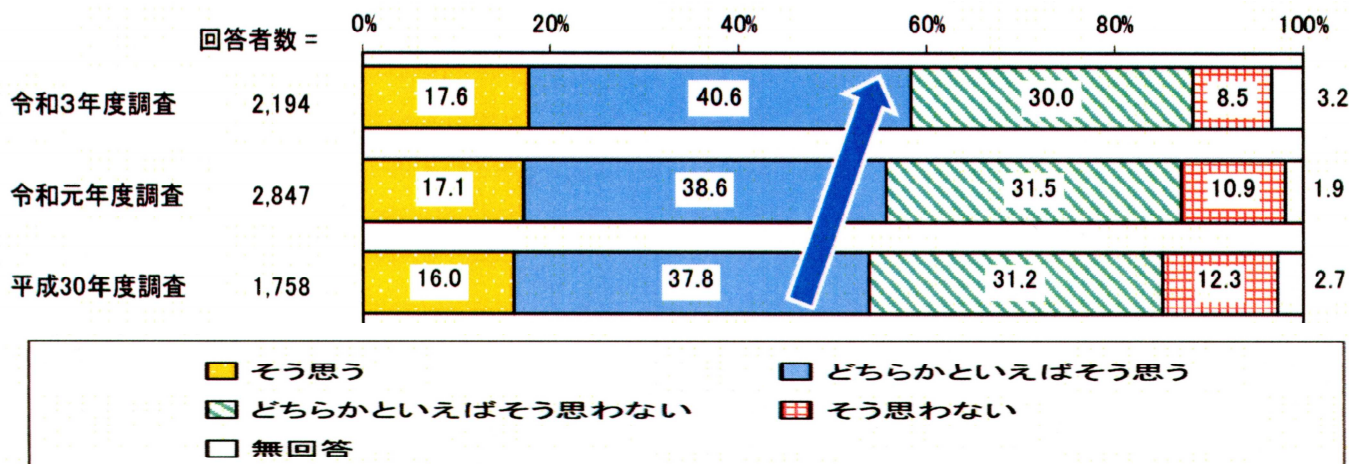
7月は福岡県同和問題啓発強調月間です

福岡県では、同和問題の早期解決を目指して、昭和56年度から毎年7月を「同和問題啓発強調月間」と定め、各種の啓発行事を実施し、差別をなくすための取組を展開しています。

同和問題とは、特定の地域の出身であることを理由に、結婚や就職などにおいて不利な扱いや差別的言動を受けるといふ、日本固有の人権問題であり、国民全体として解決すべき課題です。

下のグラフは、久留米市が実施した「市民意識調査」の項目の1つ「同和問題等の解決に向け、自分自身の人権に対する感覚を高めたいと思いますか」の経年の回答結果です。

令和3年度は、『そう思う』（「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」）の割合が58.2%となっています。経年比較では、『そう思う』の割合が徐々に高くなっています。



このように、これまでの同和問題の解決に向けた様々な対策により、一定の成果が上がっているところですが、差別的な事象は後を絶たず、今もなお差別に苦しむ人々があります。最近では、インターネット上での誹謗・中傷が後を絶たないようです。インターネット上は正しい情報だけではなく、間違った情報、差別を扇動する、偏見を助長するような情報も混在しているため注意も必要です。

やはり、同和問題の解決のためには、私たち一人ひとりが避けて通ろうとせず、偏見を持たずに正しく知る(学ぶ)ことが大切です。青峰校区の全員が学ぶことによって差別をなくす態度や行動を高めることに努めましょう。



目から鱗！子育ての名言



1学期も、あと3週間。その後、1ヶ月程の夏休みが控えています。その間のお子さんの教育は、学校教育から家庭教育に委ねられることになります。つまり、夏休み中の教育者は、主に保護者となるわけです。

ここで、私の手元にある書籍「声に出して読みたい『教育者の名言』」から、大変参考になる名言をいくつか紹介したいと思います。一度、声に出してみて、実践してみてください。

「君はいつも元気で明るいね」と子どもに声をかけていると、その子はいつの間にか、元気な明るい子に育っていく。これは「暗示」でもあるし、1つの「評価」の方法である。つまり、「評価の仕方」で子どもは変わるのである。

福岡県生まれの教育実践家 元愛知教育大学教授 有田和正氏

世の中は自分の思うとおりになんかならないし、そもそもそういうものだという前提である。このことは「だから諦めろ」ということを意味するのではない。むしろ「だから頑張れ」ということなのである。

千葉県生まれの教育実践家 元北海道教育大学教授 野口芳宏氏

やりたいことは やらなければならないことの 向こう側にあるんだよ。

「陰山メソッド」による百マス計算等の徹底反復の実践や、生活習慣の崩壊が学力低下の起因だと考え「早寝・早起き・朝ごはん」を提唱している教育実践家 立命館大学教授 陰山英男氏

7月の行事予定

1日(金) 放送朝会

4日(月) 特別時制 (~8日(金))

5日(火) 委員会

7日(木) 3年・4年非行防止教室

11日(月) プール納会

12日(火) クラブ

13日(水) 学期末懇談会

1~3年 14:10~14:55

4~6年 15:00~14:45

児童下校 13:30

児童下校 15:00

14日(木) 着衣水泳

18日(月) 海の日

20日(水) 1学期終業式

25日(月) 個人面談 ~27日(水)

